

DX(デジタルトランスフォーメーション)という言葉が頻繁に使われだして7年ほど…
今の日本のDXは?

DXはもう古い?

オワコン(終わったコンテンツ)?今更取り組んでも遅い?
否!そんなことはありません!遅くもありません。

出来るコトから始めましょう。



今こそ
知りたいDX /
vol.23
(Ver2.0)

新年度を迎えられた企業も多く、新しい職務や、新社会人の方も多中、まだまだビジネスの主戦場であるDXについて最新情報と復習しておきましょう。



2025年のDXとは?

コロナ禍を経てワークスタイルが大きく変わり、生成AIの出現やテクノロジーの圧倒的な進化、2025年グローバル環境の大きな変化に伴って、DXの考え方や進め方も変化を遂げてきています。



今、中小企業を取り巻く“3つの現実”

1 生成AIは、もう「試す」段階を過ぎた。現場の知恵+生成AI!



2 国内の人手不足は、待ったなし。人件費も上昇、採用競争の激化!



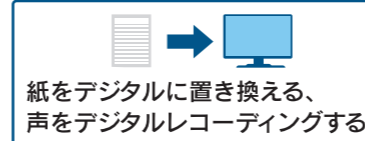
3 大国の関税方針転換や地域紛争で世界は揺れ、経済や社会も揺れる!



もう一度DXの概念と定義をわかりやすく整理しておきましょう。

① デジタイゼーション (Digitization)

紙や肉声などの音声等、アナログを「デジタルデータ」にすること



紙をデジタルに置き換える、声をデジタルレコーディングする

ITはデータが基盤です。コンピューターはデジタルデータでなければ処理(計算)ができません。IT化の入口となるステップです。

POINT 「データにしないと始まらない!」一番初めの段階です。



② デジタイゼーション (Digitalization)

仕事の流れを「自動」や「つながる」に変えること



業務そのものをデジタルで回す

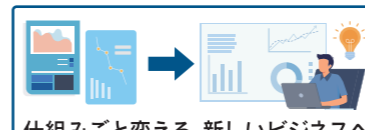
単にデータにするだけでなく、業務の流れ全体をデジタルで効率化します。アプリやシステムを使って、業務を連携したり、自動化・省力化・可視化したりすることが目的です。

POINT 「仕事や業務流れがデジタルに変わる、自動化され、重複入力がなくなる」段階です。



③ デジタルトランスフォーメーション (DX)

会社やビジネスの「あり方」を変えること



仕組みごと変える、新しいビジネスへ

データとデジタルの力で、商品・サービスの作り方、売り方、働き方まで変えること。さらに顧客が感じる価値も変え、顧客の購買プロセスや「経験」までも変えること。新しい価値と収益を生み出す「経営改革」です。

POINT 「売り方・会社の姿、そして顧客への価値と体験とが変わる企業変革・経営改革」の最終段階です。



DX(デジタルトランスフォーメーション)という言葉が広がって、もう7年。けれど現場の声は——
「何から手を付ければいいのかわからない」
「専任のIT人材がない」「投資に見合う効果が見えにくい」



特に中小企業では、限られた人と時間で“成果が数字に表れるのか”を確かめづらいことが、踏み出せない大きな理由になっています。しかしDXとは、最新技術を一気に導入する施策や競争ではありません。

自社の強みと現場の知恵を、デジタルの力で磨き上げる——

小さく始め、効果を測り、学びを次につなげる。その積み重ねこそが、本当の変革を生み出します。“今さら”ではありません。今だからこそ、自社らしい変革を始める好機です。春!新しい取り組み、再チャレンジには良い季節です! まずは一歩、小さな成功体験から——私たちと一緒に踏み出してみませんか?





DXを身近に感じよう!

私たちが良く使うタクシー。乗り方や降り方、料金の支払い方法も変わりましたね。インバウンドによる外国の方も、このおかげでタクシーを利用しやすくなりましたし、運転手の方も、言葉がうまく伝わらないといったコミュニケーションの問題も改善したと思います。



1. デジタイゼーション (Digitization) : アナログな情報をデジタルデータに変換する段階

どんな変化が起こった?

- **地図のデジタル化:**紙の地図からカーナビゲーションシステムへ。これにより、運転手はより正確なルート案内が可能になり、乗客も現在地や目的地までの距離感を把握しやすくなりました。
- **無線配車のデジタル化:**無線による配車指示が、音声だけでなく、デジタルな文字情報や地図情報として表示されるようになりました。これにより、聞き間違いや場所の誤認が減り、効率的な配車が可能になりました。
- **料金メーターのデジタル化:**機械式の料金メーターからデジタル表示のメーターへ。これにより、料金計算がより正確になり、印字された領収書の発行も容易になりました。



プロセスはどう変わったのだろう?

これらは、既存のタクシー業務における情報をデジタルデータに置き換えることで、業務効率の向上や情報伝達の正確性を高めることを目的としていました。また、乗客の乗車方法や支払い方法は従来の方法が主流でした。

2. デジタライゼーション (Digitalization) : 個々の業務プロセスをデジタル技術で効率化する段階

どんな変化が起こった?

- **GPSによるリアルタイム位置情報:**タクシーの位置情報をリアルタイムに把握できるシステムが登場。これにより、配車センターはより効率的な配車が可能になり、乗客もタクシーがどこにいるのか、あとどれくらいで到着するのかを把握できるようになりました。
- **オンライン決済の導入(一部):**クレジットカードや電子マネーなど、現金以外の支払い方法が導入され始めました。これにより、乗客は現金の持ち合わせがなくてもタクシーを利用できるようになり、運転手も現金の取り扱いが減りました。
- **配車システムの高度化:**GPS情報と連携し、空車状況をリアルタイムに把握し、最適なタクシーを自動的に配車するシステムが登場しました。



プロセスはどう変わったのだろう?

この段階では、デジタル化された情報を活用して、配車業務、乗車体験、支払い方法といった個々のプロセスがデジタル技術によって効率化されました。しかし、まだ乗客が主体的にタクシーを呼ぶ仕組みは一般的ではありませんでした。

3. デジタルトランスフォーメーション(DX): デジタル技術を活用して、ビジネスモデルや顧客体験を根本的に変革する段階

どんな変化が起こった?

- **タクシーアプリの登場:**スマートフォンアプリを通じて、乗客がいつでもどこでも、自分のタイミングでタクシーを呼べるようになりました。
- **乗車・降車場所の指定:**アプリ上で乗車場所と降車場所を事前に指定できるため、道案内が不要になったり、スムーズな乗車・降車が可能になりました。
- **料金の事前確定やオンライン決済の普及:**アプリ上で事前に料金が確認できたり、クレジットカードやアプリ連携のオンライン決済が一般的になりました。降車時の煩わしい支払いが不要になりました。
- **運転手の働き方の変化:**アプリを通じて効率的に乗客を見つけられるようになり、流し営業の負担が軽減されました。また、ナビゲーション機能と連携したルート案内、アプリ上での料金収受や領収書発行など、業務の多くがデジタル化されました。
- **新たなサービスの創出:**配車履歴に基づいたおすすめ、AIによる需要予測を活用した効率的な配車、相乗りサービスの提供など、新たなサービスが生まれています。

プロセスはどう変わったのだろう?

タクシーアプリの登場は、単にタクシーをデジタルで呼べるようにしただけでなく、**乗客の利便性を飛躍的に向上させ、タクシー業界全体のビジネスモデルや顧客体験を根底から覆しました。 **乗客は「待つ」から「呼ぶ」へ、支払いは「現金」から「オンライン」へ、というように、タクシーとの関わり方が大きく変化しました。また、運転手にとっても、働き方や業務プロセスが大きく変化しました。



まさに、タクシーアプリの出現は、デジタイゼーション、デジタライゼーションを経て、顧客体験とビジネスモデルを大きく変革したDXの典型的な事例と言えるでしょう。自社のDXを考える上でも、身近な具体例をイメージしながら、段階的に変化を捉え、最終的にどのような価値を提供したいのか、という視点を持つことが重要になります。

IPA(独立行政法人情報処理推進機構)のWebサイトに、「DX推進における健康診断」ができる、DX推進指標があります。



出典:DX推進指標のご案内 <https://www.ipa.go.jp/digital/dx-suishin/about.html>

以下はIPAのWebサイトから引用したものです。

DX推進指標のご案内

公開日:2019年10月25日
最終更新日:2025年1月8日
独立行政法人情報処理推進機構
デジタル基盤センター

DX推進における「健康診断」

DX推進指標は、経営者や社内の関係者がデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進に向けた現状や課題に対する認識を共有し、アクションにつなげるための気付きの機会を提供するものです。

「DXの何から手をつければよいかわからない」

「取り組みは始めたけれど、自社のDXレベルがわからない」

このような悩みを解決するために作られたのが、DX推進指標です。

DXは単なるデジタル化では達成できません。DX推進指標であなたの会社のDX推進状況とやるべきことを明らかにしましょう。

DX推進指標でできること

1. 現状を知り、関係者の目線を合わせる

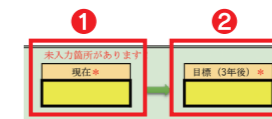
DX推進に向けた「経営・ITシステムのあるべき姿」と現状のギャップを知り、経営層、事業部門、DX・IT部門など関係者どうしの目線を合わせることで、今後の取り組みを考える土台づくりになります。

「DX推進指標自己診断フォーマット(Excelファイル)」をダウンロードして、あなたの会社のDX推進状況を確認しましょう。

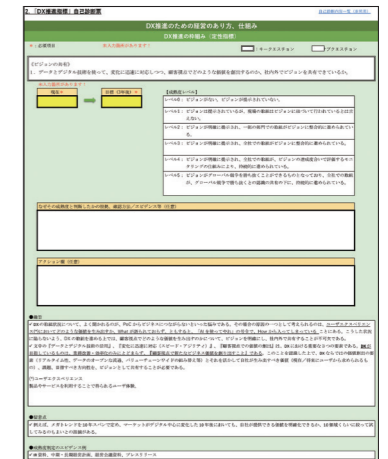
<https://www.ipa.go.jp/digital/dx-suishin/ug65p90000001j8i-att/suishin-format24.xls>

DX推進指標Excel

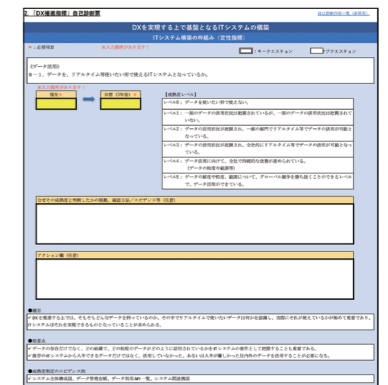
まずは現在の状況①を入力します。次に3年後への目標②を入力しましょう。また、経営幹部や事業部門、DX部門、IT部門などの関係者が集まり議論しながら、記入するのがオススメです。



DX推進指標自己診断フォーマット(Excel): ビジョンの共有



DX推進指標自己診断フォーマット(Excel): ビジョンの共有



DX推進指標自己診断フォーマット(Excel): データ活用

上記は、IPAのWebサイトに掲載されている情報です。ぜひ「DX推進指標自己診断フォーマット(Excelファイル)」を活用してみてください。自社のチェックをするには最適だと思います。ぜひ参考にしてください。



さらにわかりやすくYouTube動画もありますよ。下記URLを参照してみてください。
<https://www.youtube.com/watch?v=U2tP4bgcajY>



最後に!

DXがもたらす3つの「いいこと」

デジタル変革(DX)は、私たちの働き方、お客様との関わり方、そして会社の成長に、大きな「いいこと」をもたらしてくれます。

① 社員の視点

面倒な作業、アナログの属人的業務から解放され、快適かつ創造的に働き、デジタルスキルも高まり新たなキャリア形成へ!

② お客様の視点

この会社、私のことわかってくれる!便利なモノとコトをありがとう! さらに満足できる良質な体験にワクワク!

③ 経営の視点

不確実な社会や市場に迅速に対応でき、新しいビジネスとその価値を高め、強く(強靱な利益体質)、人も組織も成長できる会社へ!

お客様の成長のため、私たちがDX推進パートナーとなり、寄り添い続けます!

